

日々成長

第7回・8回 WBSC 女子野球ワールドカップ

たなか あきの
日本代表 田中露朝さん (22 歳)

1996 年 菟田野生まれ 投手：右投げ右打ち

(経歴) 菟田野ワルサーズ

菟田野中学校 野球部

福知山成美高校 女子野球部

尚美学園大学 女子硬式野球部

第7回に引き続き、8回 WBSC 同大会 (2018 年 8 月アメリカで開催) に出場し、日本代表の 6 連覇に貢献

今大会決勝戦では、先発の里投手から引き継いで完封リレー。優勝の瞬間をマウンドの中心で迎えた。

世界大会後、大学チームでの学生最後の大会で、全国大学女子硬式野球選手権では優勝、女子野球ジャパンカップでは準優勝を飾り、自身は優秀選手賞など多数の表彰を獲得。

日本女子野球界の次代のエースとして注目を集めている。

写真提供・取材協力：全日本女子野球連盟

小さい頃から野球は身近でした

もともと兄弟をはじめ、野球中心の家族だったので、私も当たり前のように野球をしていました。

最初は、地域にある少年軟式野球チーム。引き続き中学校でも野球部に入部しました。少年チームのメンバーとずっと一緒だったので、本当に兄弟のようでした。体力的にも困ることはありませんでしたし、とにかく野球をするのが楽しかったですね。ただ着替えは少し困りましたけど (^ ^)

より高みを目指して

しかし、高校になると、女子野球部はごくわずか。幸運や縁もあって、女子野球名門校に進学できましたが、そこで待っていたのは大きな変化！

まず、初めての寮生活。そして周りは女子ばかり。またボールも硬球に変わり、身体に掛かる負担も大きくなりました。もちろん、ストレスやスランプもありましたよ。

でも当時コーチをしてくれた里綾実選手 (女子プロ野球 愛知ダイオーネ所属) という日本代表の絶対的エースから、技術面や精神面などを教えていただき、私は凄く憧れを持ちました。そして、目標として追いかけたと思いました。

初めて日本代表のトライアウト (選考テスト) を受けたのも高校生の頃 (第6回大会)。その時は最終選考で外れてしまい、とても悔しかったけど、もっと上手になりたいと思うようになりました。

そして、今の大学で野球を続けることが

でき、第7回大会 (2016 年 8 月) でやっと日本代表に選ばれました。憧れの里選手や頼れる先輩たちと一緒にだったので、とにかく思いっきり投げることができました。

2 度目となる世界大会への出場

実は、前回大会の後、燃え尽きたというか、この時に一度、野球を辞めようと思ったことがあったんです。

元日本代表という目で見られるのでプレッシャーもあったし、大学のチームでも初めてキャプテンをすることになって、自身に求められるものがより大きくなってきて、一度は野球から離れて、普通の学生に戻って、普通に社会人になって・・・. . . と思っていたんです。

でも、やはり試合に勝つ喜びって、とても大きいと思うんです。私も悩んでいるうちに、「勝利の喜びをまた味わいたい」、「またマウンドで投げたい」という気持ちが高まってきたんです。

そして、第8回大会に向かって、再び迎えた代表へのトライアウト。

実は、世界大会前に親指を骨折したんです。よ。なんとか試合には間に合ったけど、本当に「今回は無理や」と諦めかけていたんです。でも「世界のマウンドで投げたい!」、その一心で、けがを押して練習もしました。

そうして再びアメリカの地でマウンドに立った時、そこで感じたのは、喜びよりも想像以上のプレッシャーでした。



新しい代表チームでは、年齢的にも中堅になり、初選出の選手も多くいました。そんな中、経験者として自分に求められることも増え、それに応えられる自分を作らなければなりません。そういった過去最高の緊張感で、私はマウンドで足を震わせていたんですよ^(^▽^)。

決勝戦では、最終回を投げさせてもらって優勝の瞬間にマウンドの真ん中でいることができました。それは一生の宝物です。「次も決勝で投げたい」という新たな目標が出てきました。

アスリートとしての私

私は、アスリートとして「毎日〇〇をしなければならぬ」とか「食事に気をつけなければならぬ」というタイプではなく、食事もそんなに気を使わないし、普通に学校で勉強をして、バイトに行つて、クラブの練習に行つて、という自然体で日々を過ごすタイプ。

アスリートっていうよりは、いたって「普通の大学生」ってタイプ^(^▽^)ですが、練習では毎回「何か課題を持つて、手を抜かない」ということを心がけていますし、学校チームではキャプテンでしたので、「人から見られている」「チームを引っ張っていかねばならない」という意識を常に持っていました。

学生生活は、充実しています。野球はもちろんですが、休日は遊びに行ったり楽しんでいますよ。

ただ、「先日までフロリダで世界大会に出てたのに、今日はコンビニのバイトか・」ってギャップを感じることは時折あります^(^▽^)。

先日、大学のクラブも引退したので、当面はゆっくりオフを楽しみたいです。今まで選手として野球漬けだった自分へのご褒美ではないですが、旅行に行ったり、最後の学生生活を満喫したいです。

世界戦を経験して

今回の世界大会では、前回と比べて他の国のレベルアップに驚いています。国としての盛り上がりもあるでしょうし、世界的にも少しずつ女子野球であつたり、女子スポーツへの注目が高まり、選手の受け皿が広がってきているようですね。

私も、野球は続けたいのですが、女子野球はまだまだ認知度が低いので、それだけで生活するのは大変。女子プロ野球も日本で4チームあるのですが、給料面でも厳しく、副業がないと生活できないのが現状で、将来的な不安もあります。

メジャーではない競技の選手はみんな同じ思いを持っています。特に大型スポンサーがあるなど、その競技自体の資本力がなければ選手生活が続けることは困難です。同じ

世界大会でも競技によって、テレビなどマスコミの取り上げ方や集客力、社会からの注目度なども大きく異なるんです。

女子野球も、もっとメディアなどに取り上げてもらって、「女子でも野球したい」とっていう人が増えればうれしいですね。競技人口が増えれば業界が盛り上がるし、才能があるのに受け皿がないから、続けるのを諦めるとなるのが本当に残念。

これから

今の自分にとって「野球は全て」。楽しいことも、悔しいことも、感謝すること、大切なことは全て野球から学びました。

これからの若い人々には、「自分がやりたいことを突き進んで続けてほしい」、それから「仲間の大切さをわかってほしい」と思っています。現在大学で教員になるための勉強もしているの、選手引退後は学校の先生として菟田野に戻り、このことを伝えるのが夢です。

そのためにも、当面は3度目の日本代表選出、そして世界大会連覇を目指し、社会人チームで野球を続けるつもりです。女子野球はまだまだ発展途上で、話題性や注目の必要です。何より皆さんからのご支援が重要です。私ももっとがんばります。皆さんこれからも応援をよろしくお願いします。

